

## 私のすすめるこの1冊

榎下 達也（音楽科 准教授）

### 『砂場の少年』

灰谷健次郎（著）

私はこの本に2度出会った。中学生のとき、国語科のM先生に突然、「榎下、この本読んでみ。」と手渡されたのが1度目。なぜ渡されたのかもよくわからないまま帰宅し、パラパラとめくっただけで本棚に入れた。だから1度目は物理的な出会いで終わった。2度目は小学校教師になっていた20代半ば、内容は忘れたが仕事のことで悩んでいたときだ。休日に自宅の本棚を眺めていて目に留まったのがM先生に手渡された本だった。10年におよぶ「借りパク」状態である。裏表紙に本の内容が説明されていた。

元TVディレクターの葛原順は、教師である妻透子が心を病み、休職したことをきっかけに、35歳で初めて臨時採用の中学教師になった。画一的な授業に専心する同僚、反抗する生徒、苦悩する親など、荒廃する教育現場で、非行、登校拒否、体罰が続発する中で、葛原はどのような教育を実践するのか——。管理教育を告発し、子どもと大人の真の関係の在り方を問う文庫書下ろし長編小説。（初版第6刷、カバー）

最後まで一息に読み切った私は、「今日読むために、この本は10年も前から私の手元にあったのだ」と本気で思い、M先生に心から感謝した（借りパクなのに）。

著者の灰谷は、17年続けた小学校教師の職を辞し、その後小説家として有名になった人だ。作品を通し、学校現場に表出する社会の矛盾を告発しつつ「教育とは何か」を問い続けた。評価は様々で、教師の中には「学校現場を去って作家になった者が偉そうに教育を語るな」と嫌う人がいる、との話も聞く。

この本の初版は1990年なので、描かれるのは1980年代後半から1990年代初頭頃の学校現場の「一つの姿」だ。ただ、登場人物はややリアリティに欠ける。例えば主人公が担当することになる「反抗的な学級」の生徒たちは皆、異様なほど饒舌に、理路整然と学校や教師や社会への批判

を述べる。母親たち、同僚の教師たちも、皆、明確な言葉で教育に対する自分の意見を語る。現実世界では違う。言葉にできないモヤモヤとした霧のような感情のなかで人は悩み、苦しみ、もがく。

とはいえ、この本ではむしろ、教育に関わる人々のモヤモヤに明確な言葉を与えることで、灰谷の教育に対する考えをストレートに表現しているように私には思われる。

「自由だとか平等だとか口にしながら、…生徒の前に立った時の、ひそやかな優越感、人間としてそんなことをするべきじゃないと生徒にいじかしているときの、隠しようもない誇らしさ。それは、みんな人間の弱さだと思います」…「いってみれば誰も教師をやる資格なんてないんです。人にものを教える資格なんてないんです。でも教師は必要です。僕はやめなくて教師をしています」（274-275頁）

今回、本稿を執筆するにあたって同書を読み返した私は、主人公の同僚が職員会議で吐露するこの独白に息を飲んだ。30代になり「教師を育てる教師」として大学に勤めるようになった今の私に「教師とは何か」という問いを改めて突きつけられたような気がした。

中学生時代には教師になるなど微塵も考えなかった私にこの本を手渡したM先生の真意はやはり未だ不明だ。あるいは1990年代当時通ったあの中学校の、校内暴力やいじめだけでなく、教師の体罰が横行していた現状に口を尖らせて文句を言った生意気な私に対する、先生なりの応答だったかもしれない。いずれにせよ先生の私に対する「教育」は——それが意図した形であろうとなかろうと——この本を通して、20年経った今もなお有効であり続けている。教育という営みの重みと面白みがここにある。まだ借りたままなので（!）、今度こそ近いうちにM先生にこの本を返しに行き、感謝の気持ちを伝えようと考えている。

## 京都教育大学 それはかなう夢講座

「先生になりたいーそれはかなう夢」は、京都教育大学のシンボルフレーズです。「それはかなう夢講座」では、本学の教職員が、学部、大学院のすべての専攻、研究科の学生や教職員の皆さんを対象に、科学の魅力をわかりやすくお伝えしていきます。特に、小学校の先生になりたいと思っている学生の皆さんのご参加をお待ちしています。

おにぎり2個  
&お茶付き！  
先着30名

### 第13回のお知らせ

【日時】10月25日(木) 12:10~12:40  
【場所】附属図書館1階 リフレッシュラウンジ  
【講師】藤浪 理恵子(理学科講師)  
【テーマ】色々なところで生きることを決めた植物たち

主催：「現代的ニーズを踏まえた「理系」教員養成のための  
カリキュラム開発」プロジェクト委員会  
後援：京都教育大学同窓会・京都教育大学附属図書館

#### 〈概要〉

「植物」ときいて、みなさんは何を思い浮かべますか？  
きれいなお花や野菜、私たちが癒してくれるみどりなど私たちの身の回りにはたくさんの植物が存在しています。  
でも、私たち動物とは異なる生き方をしていますね。そう、動かないのです！  
植物は自由に動き回ることができないにもかかわらず、色々な場所で力強く生きています。本講座では、植物の柔軟な適応力について、過酷な環境に生きる植物の“かたち”に注目してお話します。

## わくわく kyo2 ライブラリー2018 読書キャンペーン

図書館で借りた本の紹介をして、そったくんグッズや図書カードをもらっちゃおう！

実施期間：2018年10月1日(月)～2019年2月1日(金)

借りた本のポップ(A6サイズ、イラストやキャッチコピーなど)や、紹介文(400字～600字程度)を提出してください。提出者には参加賞(そったくんグッズ)を進呈します。全作品の中から優秀なものには館長賞(図書カード)が授与されます。

【対象者】本学学生(学部学生、大学院生、科目等履修生、研究生等)詳細は、館内ポスターや附属図書館HPなど各種お知らせをご覧ください。



## リクエストと投票で 話題の本を読もう！

リクエストや投票にどんどん参加してください！

学習研究以外のリクエスト本を一定期間掲示し、皆さんの投票で購入する本を決定するリクエスト企画をしています！

●リクエストは随時受け付けています

- ・学習研究目的のものは原則として購入します。
- ・学習研究以外の目的のものは、毎月10日までに受け付けた分を15日～月末に館内で投票し、票の多かった本を購入します。※結果によっては購入できないこともあります。

10月の投票期間は

**10月16日(火)～10月31日(水)**です。

※図書館1階渡り廊下・北館2階研修セミナー室前に展示しています。

読みたい本に  
投票しよう！  
(1日1ポイントまで)





★ **スマートフォン用  
図書館アプリの提供を開始しました！**

“Ufinity” というアプリの提供を開始しました。蔵書検索や利用状況の確認などが行えます。App Store(iPhone)または Google Play(Android)よりインストールしてください。詳細は図書館 HP をご確認ください。



★ **雑誌の製本作業について**

8月から10月中旬(予定)まで、南館1階・西館3階にある雑誌のうち、2016年～2017年に発行されたものを中心に、一部の巻号が製本作業のため利用できなくなります。製本後はすべて西館3階(書庫)に並びますので、そちらをご利用ください。

※作業中は製本対象リストを図書館ホームページに掲載しています。



★ **学修相談カウンター  
10月から再開します！**

理数系の院生がいる  
いろいろな質問に対応して  
くれます。勉強や就職のこと、先輩に相談してみませんか？

どんどん利用してください！



★ **図書館講習会のお知らせ**

4～7月に実施した講習会を10～11月にも開催します。詳しくは、図書館 HP やチラシをご覧ください。



★ **企画展示室 (北館1階)**

★ **2018年度 MOA 美術館伏見区児童作品展**

【会期】10月20日(土)～27日(土)  
子ども達の力作が展示されます！ぜひ見に来て  
ください。

**児童書コーナー (南館1階)**



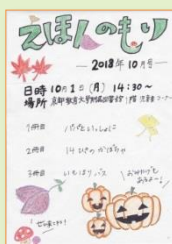
学生作のチラシ→

**学生による絵本のよみかきせ**

※2018年9月～2019年3月は  
開始時間が14:30～に変更となり  
ました。

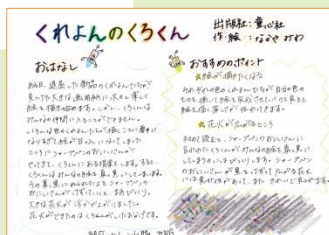
★10月1日(月)  
14:30～14:45  
『パパといっしょに』他

★10月15日(月)  
14:30～14:45  
『しろくまちゃんのほっとけーき』他



**今月の絵本カード (学生作)**

『くれよんのくろくん』  
作・絵：なかや みわ  
出版社：童心社



※児童書コーナーに展示しています。他にも毎月かわいい  
カードが飾られていますので、ぜひ見に来てください。

＜お知らせ＞

◆第7回 京都・大学ミュージアム連携スタンプラリー  
(本学は参加大学です。)

**9月15日(土)～12月8日(土)**

京都の大学ミュージアムをまわって「知」と「美」と  
「素敵な景品」を手にとろう！

◆教育資料館夏季臨時休館中です

企画展等準備につき、  
**8月1日(水)～11月2日(金)**は休館しています。

**教育資料館 まなびの森ミュージアム**

今月の逸品 (10・11月)

「神代續歴代皇陵譜 (しんだいぞくれきだいこうりょうふ)」

※休館中のため、附属図書館で展示しています。

詳しくはホームページの「今月の逸  
品」コーナーをご覧ください。

写真は一部分です→

教育資料館 まなびの森ミュージアム  
<http://www.kyokyo-u.ac.jp/museum/>



京都教育大学紀要(大学発行の学術雑誌)に掲載された論文を、執筆した先生本人にご紹介いただくコーナーです。

## 論のくちび理のむすび

今回の執筆者 **梶原 裕二**(理学科 教授)

### 哺乳類代替動物として — アフリカツメガエルを用いた分裂細胞の検出実験 —

梶原 裕二

京都教育大学紀要. 2018, No. 133, pp. 35-42.

動物の体づくりや維持において、DNAの複製とそれに続く細胞分裂・増殖は重要な出来事です。例えば哺乳類では、血液、小腸上皮、精巣などの組織は幹細胞を元にした活発な細胞分裂により維持されます。従来から増殖細胞を検出する方法として、DNAの材料の一つ、チミジンの代わりにブロモデオキシウリジン(BrdU)を取り込ませ、細胞周期のDNA合成期を標識、抗体で検出する手法があります。この方法は一般的な実験動物であるマウスが使われますが、動物愛護管理法の観点から、哺乳類のマウスを動物実験に用いるには、動物委員会や施設の完備、熟練した実験者が必要です。そこで、学校でも実施できる代替動物としてアフリカツメガエルが利用できるかを検討しました。変態中の幼生の後肢芽は発達中の器官で、内部の間充織には多数の増殖細胞が存在します。実験の結果、確かに後肢芽に多数の陽性細胞が存在し、染色の様子もマウスの小腸や精巣と同様だったことから、本法が両生類でも適用できることがわかりました。また、子ガエルの小腸や精巣の増殖細胞の存在場所がマウスと異なり、両種の組織内における増殖細胞の動態の違いと思われます。著者らが開発した簡易凍結徒手切片法と抗BrdU抗体による増殖細胞の検出法がカエルで代替できることが示され、動物組織の観察に加え細胞増殖も調べることで、生徒が学校の理科室で課題研究を実施する際、より広いテーマの設定が可能となります。

※本タイトルの論文は京都教育大学紀要 133 号に掲載されています。

※京都教育大学リポジトリ「クエリ(KUERe)の森」<https://ir.kyokyo-u.ac.jp/>でもご覧ください。

開館日程 □9:00-21:00 ■9:00-17:00 ■休館(CLOSED)

2018年10月						
日	月	火	水	木	金	土
	1	2	3	4	5	6
7	8	9	10	11	12	13
14	15	16	17	18	19	20
21	22	23	24	25	26	27
28	29	30	31			

10/1 後期授業開始  
10/13 編入学試験

2018年11月						
日	月	火	水	木	金	土
				1	2	3
4	5	6	7	8	9	10
11	12	13	14	15	16	17
18	19	20	21	22	23	24
25	26	27	28	29	30	

11/7 館内整理日  
11/10 センタープレテスト  
11/16-18 藤陵祭

●京都教育大学附属図書館ホームページ

<http://lib1.kyokyo-u.ac.jp/>

●携帯版 OPAC

(QRコード)

<http://tosh2.kyokyo-u.ac.jp/webopac/mobtopmnu.do>



京教図書館 News No.217(2018年10月号)

発行日:平成30年10月1日

編集発行:京都教育大学附属図書館

問い合わせ先:library@kyokyo-u.ac.jp

国立大学法人  
**京都教育大学**  
KYOTO UNIVERSITY OF EDUCATION